



題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail: ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二七年度 秋田県消防協会評議員会開催される

平成二六年度会計決算承認

公益財団法人秋田県消防協会の平成二七年度評議員会が五月二二日(金)、秋田市の「イヤタカ」で開催されました。

評議員会には、秋田県副知事堀井啓一様、秋田県議会議長渋谷正敏様、秋田県消防学校長保坂雅弘様が来賓として出席されたほか、評議員一八名、理事・監事一二名が出席しました。

最初に殉職された消防職員・団員の御霊に黙祷を献げ、引き続き中田会長がいさつ、堀井副知事並びに渋谷議長から祝辞をいただきました。

議事に入り、平成二六年度事業の概要報告や会計決算、また、任期満了に伴う監事三名の選任、辞任に伴う理事三名及び評議員六名の選任などが審議されました。

監事の任期は、平成二九年度定時評議員会の終結の時までとなります。

会長あいさつ



秋田県消防協会会長
中田 潤

ご来賓並びに評議員の皆様には、当協会の運営に対し、それぞれの地域において、格別なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

去る五月一日湯沢市において、七人が犠牲となる大変痛ましい火災が発生しました。また、昨年は火災により三五名の方が尊い命を失っております。

このような中、県民の消防防災に対する関心・期待は高まっており、消防本部、消防団の任務・役割は益々重要であります。我々は地域住民の負託に応えられるよう、なお一層、精進を重ねていく必要があると考えています。

当協会も公益財団法人に移行して三年が経過しましたが、関係者各位のご協力とご支援によりまして、概ね順調に運営出来ましたことに対しまして、感謝申し上げます。

平成二七年度全国統一防火標語
無防備な 心に火災が かくれんぼ

来賓祝辞



秋田県副知事
堀井 啓一

平成二七年度も皆様のご尽力によりまして、県民一人ひとりが安全で安心して住む、そうした社会を作っていきたいと考えておりますので、何卒ご協力をお願いいたします。

また、住民自ら点検、対応を講じるような取り組みを、皆さんの力で進めていただきたいと思います。



秋田県議会議長
渋谷 正敏

地域防災を取り巻く環境は、極めて厳しい状況にあります。どうか中田会長を中心に、より強力な組織作りに努められ、消防防災の更なる充実強化に向けた取組について、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

■承認された議案

- ①平成二六年度事業の概要報告
- ②平成二六年度会計決算
- ③監査報告

■役員等の選任

＊任期満了に伴い選任された監事

成 田 俊 昭 (再任)

小坂町消防団長

佐々木 護

にかほ市消防団長

佐々木 謙 吉

東成瀬村消防団長

＊新たに選任された理事

佐々木 一 義

横手市大雄消防団長

高 橋 博 英

秋田県総合防災課長

森 合 和 美

秋田県消防長会長

＊新たに選任された評議員

横 山 久 雄

秋田市消防団副団長

佐々木 伸 一

にかほ市消防団副団長

畠 山 操

由利本荘市消防本部消防長

高 階 健 太 郎

横手市山内消防団長

佐 藤 庫 之 助

横手市雄物川消防団長

大 石 義 孝

横手市消防本部消防長

(任期は、理事・評議員が平成二八年度、監事は平成二九年度定時評議員会の終結の時まで)

■協議事項等

①平成二七年度事業計画及び収支予算

②平成二八年度消防大会の開催支部

※第六九回大会は、能代市山本郡支部で開催します。

③第五二回秋田県消防操法大会出場順

④秋田県消防操法大会の表彰(優勝旗の取扱い)について

⑤特別表彰「消防団員家族表彰」の新設について

第52回秋田県消防操法大会出場順

支部名	種目等	小型ポンプ操法の部	ポンプ車操法の部
鹿 角		7	2
大 館 北 秋 田		1	6
能 代 市 山 本 郡		3	4
男 鹿 潟 上 南 秋		9	7
秋 田 市		6	3
由 利 本 荘 にかほ		4	5
大 仙 仙 北 美 郷		8	
横 手 市		5	1
湯 沢 市 雄 勝 郡		2	

※ 9 月 4 日 (金) 秋田県消防学校で実施

第九回東北水防技術

競技大会「優秀賞」

〓鹿角小坂合同水防団初出場〓

第九回東北水防技術競技大会が五月二四日(日)岩手県盛岡市北上川河川敷で開催され、本県代表として鹿角小坂合同水防団が出場しました。

大会は、東北六県の選抜された水防団が「月の輪工」と「シート張り工」

の二種目を行い、一五分の基準タイムと手順の正確さや出来映え、規律

などの審査により競われました。

今回、初出場しました鹿角小坂合同水防団は、鹿角市消防団、小坂町

消防団の合同チームで各分団から選抜された二二名で編成され、四月下

旬から約一ヶ月間一〇回の練習を積み、大会に臨みました。成績は初出

場ながら、「優秀賞」を受章することができました。

今回の大会を振り返りますと、タイムだけで見れば決して上位ではありませんでしたが、審査員からは完成した二種目の工法は六県の中でも完成度の高い工法であったと評価をいただきました。

そして、この大会を通じて練習の段階から鹿角市消防団と小坂町消防団が一つとなり、分団の壁を越え、

成果をだしたことが何よりも嬉しいことでありました。また、大会に出場する際に事前指導をいただきました、にかほ市消防団、前年度出場しました大仙市消防団に対しまして深く感謝申し上げます。



(情報提供 〓鹿角支部)

公益財団法人秋田県消防協会 理事・監事・評議員 (平成27年5月22日現在)

〔理 事〕

役 職	氏 名	所属・階級等
会 長	中 田 潤	能代市消防団 団長
副 会 長	草 彌 忠 誠	大仙市消防団 団長
"	成 田 十喜男	大館市消防団 団長
"	海 野 達 雄	秋田市消防団 団長
理 事	高 橋 博 英	秋田県総務部総合防災課 課長
"	黒 澤 文 男	鹿角市消防団 団長
"	近 野 宗 一	湯沢市消防団 団長
"	周 防 彦 宗	由利本荘市消防団 団長
"	齊 藤 和 雄	八郎潟町消防団 団長
"	佐々木 一 義	横手市大雄消防団 団長
"	森 合 和 美	秋田市消防本部 消防長
"	三 浦 肇	大曲仙北広域市町村圏組合 消防本部 消防長
業務執行理事	高 橋 尚 文	秋田県消防協会 事務局長

〔評議員〕

役 職	氏 名	関係する消防機関等
評議員長	佐 藤 金 一	羽後町消防団
評 議 員	割 石 博 之	鹿角市消防団
"	澤 口 紀 夫	小坂町消防団
"	米 田 均	鹿角広域行政組合消防本部
"	金 田 咲 美	北秋田市消防団
"	北 林 義 高	上小阿仁村消防団
"	佐 藤 久 仁	大館市消防本部
"	高 橋 進	北秋田市消防本部
"	金 子 忠 夫	三種町消防団
"	本 多 健	八峰町消防団
"	一 関 鏝 一	五城目町消防団
"	池 田 彰	大潟村消防団
"	天 野 正 廣	男鹿地区消防一部事務組合消防本部
"	伊 藤 繁	湖東地区行政一部事務組合消防本部
"	伊 藤 豊	五城目町消防本部
"	横 田 定 和	秋田市消防団
"	横 山 久 雄	秋田市消防団
"	石 綿 喜代隆	由利本荘市消防団
"	佐々木 伸 一	にかほ市消防団
"	畠 山 操	由利本荘市消防本部
"	伊 東 善 輝	にかほ市消防本部
"	佐々木 久 悦	仙北市消防団
"	高 橋 正 尚	美郷町消防団
"	高 階 健太郎	横手市山内消防団
"	佐 藤 庫之助	横手市雄物川消防団
"	大 石 義 孝	横手市消防本部
"	高 橋 禎 悦	湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部

〔監 事〕

役 職	氏 名	所属・階級等
監 事	成 田 俊 昭	小坂町消防団 団長
"	佐々木 護	にかほ市消防団 団長
"	佐々木 謙 吉	東成瀬村消防団 団長

平成26年度決算〔正味財産増減計算書内訳表〕

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

科 目	公益事業	共益事業	管理事業	内部取引	合 計
経常収益計	12,776,109	13,684,566	3,132,078		29,592,753
主な内訳					
基本財産運用益	750	0	0		750
受取会費(掛金)	0	5,666,700	0		5,666,700
事業収益	291,600	0	0		291,600
受取補助金等	6,101,959	5,409,115	562,000		12,073,074
受取負担金	2,840,000	1,424,849	892,313		5,157,162
受取寄付金(会費)	3,269,000	1,168,000	1,400,700		5,837,700
その他経常収益	272,800	15,902	277,065		565,767
経常費用計	17,668,573	6,826,864	5,470,968		29,966,405
主な内訳					
給与等	6,595,600	2,323,000	2,820,974		11,739,574
旅費交通費	2,406,226	333,300	1,059,599		3,799,125
備品消耗品費	957,180	2,134,040	164,410		3,255,630
印刷製本費	1,966,419	313,761	0		2,280,180
支払助成金	1,561,845	0	0		1,561,845
委託費	1,718,863	0	0		1,718,863
見舞金支出	0	1,430,000	0		1,430,000
その他経常費用	2,462,440	292,763	1,425,985		4,181,188
当期経常増減額	△4,892,464	6,857,702	△2,338,890		△373,652
【他会計振替額】	2,652,533	△2,652,533	0		0
当期一般正味財産増減額	△2,239,931	4,205,169	△2,338,890		△373,652
一般正味財産期首残高					113,099,844
一般正味財産期末残高					112,726,192
主な内訳					
基本財産	3,000,000	0	0		3,000,000

第六九期初任教育 一ヶ月を振り返って

秋田県消防学校

第六九期初任教育の在校生は、四月一〇日の入校式からもう二ヶ月が過ぎました。

入校当初、全く未知の分野である消防の教育訓練への不安、寮での共同生活への戸惑いなどが感じられたが、今ではみんなが協力して日々の学校生活を送っています。

教育訓練も五月に入ると、体力錬成、礼式訓練から消防基礎技術の習得へと移行し、現在では、空気呼吸機器取扱訓練、身体結索訓練などの実技訓練が本格化してきています。

こうした中、消防学校から「一ヶ月を振り返って」と題した作文が寄せられましたので紹介します。



伊藤 康平
(秋田市消防本部)

最初の一週間は、緊張感であり記憶が無く、毎日が時間に追われていたと思います。二週間目からは部屋の仲間を中心に、積極的に同期とコミュニケーションがとれるようになり、生活にも少しずつ慣れてきて、座学や実技訓練でも仲間とお互いに競い合いながら生活することができたと思います。

しかし、慣れてきたことで、言われていない事をしたり、指示とは違う事を行ったり、寮での生活で当たり前の事が出来ていないという事態になってしまいました。そのため、今月の私自身の目標に掲げたように、一回言われた事、注意された事は一回で直す、当たり前の事をするという目標を今月だけでなく、これからの学校生活でも現場に出ても、常に持ち続けていく必要があると思いました。

この一ヶ月の学校生活で特に印象に残っているのは、部屋の仲間との生活です。仲間には普段から良い刺激をもらい、お互いに高め合える関係になったことを、とても嬉しく思います。部屋の雰囲気も良く、お互いに信頼しながら生活していきま



本城 駿
(大館市消防本部)

入校してからの一ヶ月間は、あっという間でとても濃い時間となりました。今までの学生生活とは全く違う中での生活となり、戸惑いもたくさんありました。

しかし、ここでの生活は、人間として当たり前の事をしっかりとやっていけば、上手くやっていけることが分かりました。礼儀や挨拶を始め、常に周りに気を配ることが大切なのだと分かり、今までの自分の生活は甘かったと痛感しました。何となく生活してきた学生時代と違い、自分で考え行動し、常に先のことを考えて行く事が重要だと思いました。

給料を頂いて学校に通うということは、とても恵まれていて環境だと分かりました。同時に、消防士として常に市民の方々から見られる立場になったのだと実感しました。

これからは、ここまで育ててくれた両親、地域の方々へ恩返しするためにも、少しでもスキルアップし、立派な消防士になり、卒業できるよう頑張っていきたいと思います。



齋藤 将太
(北秋田市消防本部)

私は初めて会う人に、自分から話しかけることが苦手で、友人や仲間を作ることが出来るか不安だったが、今では多くの友人ができ、集団生活を楽しむことが出来ていると思う。初任教育を終えると各々がそれぞれの所属へと戻ることになるが、消防学校で築いた関係はこれからの消防生活に大きく関わってくるはずだ。数年後でも助けを求めてくる仲間がいたら、迷わず手を差し伸べられるような絆を作りたい。

私の今後の目標は、とにかく体力の向上に努めることだ。四月に体力テストが行われたが、結果は決して良いといえるものではなかった。今のままでは、要救助者の命だけではなく、自分の命すら危うくなることもあるだろう。私は幼い頃に交通事故に遭い、救助され、今度は自分が命を救う立場に立ちたいと思い消防士になった。その目標を達成するために、入校中、技術は勿論のこと、強い精神力と体力を身に付けたい。これから訓練も厳しくなっていくと思うが、自分の夢を叶えるため、この六ヶ月間を最高のものにするため、日々努力していきたい。



蒲野 孝次
(由利本荘市消防本部)

消防学校へ入校し三週間が過ぎ、一日一日時間が過ぎていくのが早いなと感じています。学校生活に少しずつ慣れてきて、授業や訓練、放課後と生活リズムをつかみ、それぞれに集中して取り組めるようになってきました。

入校して早々に体力測定がありました。結果を見て、現場での活動や救助訓練で良い結果を残すためには、体力錬成での努力が足りないと感じたので、消防士は体が資本であるという自覚を持ち、体力の向上に励みたいです。

また、入校して初めての消防法の効果測定を受けました。テスト後、テストに臨むまでの過程で、もっと計画的に勉強し追いついたのではないかと悔しい思いをしました。この経験を生かし、次回の効果測定に向けて計画的に良い準備をして臨みたいと思います。

一ヶ月が経過し、先日教官に指導されたとおり、気の緩みが出る時期だと思っています。学校へ来て学んだら、共同生活している目的を見失わないように、自分というものをしっかり持って、生活していきたいです。



須藤 歩夢
(にかほ市消防本部)

初めは不安も少しあった消防学校での生活も、早いもので約一ヶ月経過しました。高校に比べると、時間が流れるのはあつという間で、一日を大切にしなければいけないというのを、改めて思い知らされました。しかし、時間が早く過ぎる分、毎日が濃く良い時間になったと思います。

一ヶ月の学校生活を通して、学んだことも多々あり、日々の成長を感じています。自分自身の未熟さを感じる部分も日々少しずつ増えています。今までは気づけなかったことにも気づくことが出来たのは、良い方に捉えています。消防士としてはまだまだということを感じました。消防士としてだけでなく、公務員としての自覚、基本的なスキル、社会人としての対応、個人ではなく団体という考えの徹底、様々な所において成長しなければいけないと考えました。その為には、高い向上力と、強い精神を持つていなければいけません。一ヶ月で見つけた課題は、次の一ヶ月で達成出来るようにしなければ意味が無いので、新たな課題も見つかると思います。並行して処理していきたいと考えています。



高橋 渉
(横手市消防本部)

今月は消防士としての基礎、基本を学んだ月でした。四月八日に初めて寮に入り、その日から三日間、歩き方、基本の姿勢、敬礼などについて厳しく指導されました。一ヶ月経った今では、教官に指導されることのないような動きができるまでにになりました。また訓練では、基本結索やはしご搬送などを実施し、呼称しながらやれるようにもなりました。

基礎をやり終えた後には、応用、主に複雑な隊列を組んだり、学んだ結索を駆使し、機器、身体結索をやっていくのだろうと考えました。これからの半年間、基礎を忘れることなく何事にも取り組んでいきたいです。

今月は他にも学んだこと、成長出来たことも見つけることが出来たし、貴重な機会にもめぐり合うことが出来ました。消防人生活が始まってまだ一ヶ月ですが、すでに多くの知識を得ることが出来たように感じています。しかし、学ぶべき点は山ほどあり、その中で自分の良いと思える点、悪いと思う点を探し出していかなければならないと思っています。一人でも多くの人を支えられるような消防士になることを目標とします。



館岡 拓海
(五城目町消防本部)

平成二七年四月一〇日、夢であった消防士としてのスタートラインに立てた喜びや希望を胸に、第六九期初任教育が始まって早くも一ヶ月が経ちました。この一ヶ月での消防学校生活は、消防士にとって必要な知識、技術、そして何より仲間の大切さを実感できました。

私はこの一ヶ月の訓練の中で、心がけていたことがあります。それは「自分だけ」ではなく、「自分から」の精神で何事にも全力で取り組むということです。これは初任教育として生活する上で最も重要であると感じています。消防学校で学んでいく全てが新しく、そして意味がある。それを「自分から」積極的に吸収していく、「自分から」声を出し、仲間の士気を高め、良い方向に仲間を引っ張っていく、そうすることで訓練の質も向上して、良い訓練を行うことが出来ました。

これから季節は春から夏に変わっていく、当然暑い日差しの下で訓練も行われます。これからが本番だと思っている、初任教育第六九期全員が乗り越えられるよう頑張っていきます。



木村 匠
(鹿角広域行政
組合消防本部)

一ヶ月ここで過ごして変わったことは、生活リズムと体力です。

生活リズムでは早寝、早起きが身についたことです。土日、家に一時帰宅しますが、その時も消防学校にいる時のように六時に目覚めて、夜は二時半頃になると眠くなり、布団に入るようになりました。朝食も高校生の時は部活動の朝練習があり、いつも食べないで学校に行っていました。消防学校に入ってから朝食を食べないと、一日が始まらない感じがするようになりました。毎朝食べるようになりました。それからは体の調子も良くなったような気がします。

もう一つ変わったことは体力です。入校して直ぐに体力測定があり、自分の体力の無さを実感しました。その後、授業の始めに体力錬成をすることになりました。自分の苦手の懸垂も日に日に回数が増え、自分の限界を超えらそうに感じる日も増えてきました。これからはもっと追い込んで体力の底上げをしたいです。

一ヶ月は早く短い時間でした。二ヶ月後、三ヶ月後は更に一回りも二回りも大きく成長して、立派な消防士を目指していきたいと思います。



伊藤 二十
(能代山本広域市町
村圏組合消防本部)

学校での講義や訓練、寮生活を通して成長していくことを目標に励むことが出来たかと思えます。これからも一日一日を無駄にせず、過ごしていきたいと思えます。また、反省点を正して、より良い学校生活を送っていききたいと思えます。

講義面では、決意表明で予習、復習を怠らないという目標を持ち、学校生活に臨みましたが、甘かったように思えるので、これからの講義を更に意識を高く持ち日々励みたいと思えます。

訓練面では、体力不足を痛感しました。この学校生活を通して現場で通用する体作りに励みたいと思えます。また、日に日に訓練に応用力、対応力が求められるものになっていくと思うので、技術面での向上も目指していきたいと思えます。

生活面では、全体的に協調性が見え始めていると思えます。しかし、集団生活に慣れ始め、気の緩みがちな状況でもあるので、メリハリをつけて、そして団結して生活していきたいと思えます。

これからは、反省事項を忘れずに、学校生活を過ごしていきたいと思えます。



鳥海 颯太
(湖東地区行政一
部事務組合消防本部)

四月一〇日に消防学校に入校して早くも一ヶ月が経ちました。この一ヶ月は分からないことだらけで、ゆっくり休むことが出来ず、忙しい毎日でした。しかし、日が経つにつれて仲間が増えていき、寮生活にも慣れてきました。今まで親元で暮らしてきて、洗濯や身の回りのことは親に任せることが多かったのですが、寮生活をして改めて親のありがたみや大変さを実感しました。

訓練の方でも右も左も分からない状況からのスタートなので、何をやるにも自信を持つことが出来ませんでした。しかし、一ヶ月が経ち、少しずつですが、自信を持つて行動出来るようになってきました。自分はどちらかというところ消極的な性格なので、消防学校を卒業するまでには、この性格を直して積極的に行動し、元気で活気のある消防職員になって、自分の所属に戻りたいです。

消防学校では、失敗をしながら二度目三度目と繰り返して学んでいますが、現場では二度目というのはありえないので、これからの訓練も現場を意識して気を引き締め訓練に励みたいで。



渡部 勇貴
(男鹿地区消防一
部事務組合消防本部)

消防学校に入校して一ヶ月が経ち、だいぶ一日の流れというのが掴めてきた。今では色々な人とコミュニケーションがとれるようになり、様々な情報が入ってきて勉強になる。特に、実務経験がある人の話は参考になることが多く、実際の現場のイメージや訓練のイメージが付きやすく勉強になっている。所属に戻ったらそのことを思い出しながら行動出来るようにしたい。

訓練や小型ポンプ操法をやっている、技術や経験は勿論大事だが、声が重要になってくると学んだ。今何をしているかを周りの人に伝えて、危険かどうかを知らせることが現場では重要になると聞いたので、大きい声を出していきたい。私は声が小さいと指摘されるので、特に注意しながら訓練に臨み、常に緊張感を持ってやっていく。

まだ一ヶ月しか経っていないが、座学もどんどん進んできている。消防法の勉強では、消防の基礎となることを学んでおり、とても重要なことが多い。これからは、心身ともに鍛えて一日一日成長していきたい。



茂木 康然
(大曲仙北広域市町
村圏組合消防本部)

毎日の訓練や座学、授業後の体力錬成や予習、復習などを行っているうち、早くも一ヶ月が経過しました。私たちは、消防学校の学生である前に社会人であるということを忘れてはいけないと思います。以前、生活日誌に「早く社会人としての考えや行動が出来るように」とコメントをいただきました。自分の中にある「社会人らしさ」は漠然としていてまだピンときていません。消防学校での生活はあと五ヶ月あります。その生活の中で消防士としての知識や技能、社会人としての考えや行動が出来るようになります。

消防学校での生活にもだいぶ慣れ、四月に立てた目標は達成出来たのではないかと思います。良い方向に慣れるのはとても良いことなのですが、教官からは悪い方にも慣れてきていると指摘を受けました。慣れてくると、どうしても楽な方になってくたってしまうます。「苦は楽の種」というように今のうちに沢山苦しい経験をして、無事卒業し所属に戻ってから、恥ずかしい思いをしないように、気を引き締めてこれからの消防学校での訓練に励んでいきます。



加藤 実華
(湯沢雄勝広域市町
村圏組合消防本部)

一年間の実務経験があると言えども、全寮制で訓練漬けの毎日である消防学校に入校するのは、不安だらけであった。時間に追われるように過ごし、与えられたものをただひたすらにこなして一日が終わり、疲れ果てて眠りに就くか、直ぐに朝が来るという繰り返しの一ヶ月であった。

学校では、座学や実科訓練を中心にカリキュラムが組まれている。しかし、一番大変なのは体力錬成である。男性と同じ格好をして同じ物を持ち、同じ距離を走って同じ筋トレをする。入校するときに、「自分のペースで良いから決して途中で脱落することなくメニューをこなす」という目標を持っていた。現実には自分の体力の無さを痛感した。その先に燃えている場所があるのなら、資機材を持って駆け付けなければいけない。疲れていても現場では一切そういう表情をしてはいけないし、自分がどんなに大変で苦しくても、一番辛いのは私たちを待っている人たちである。

助けを求めている人たちのために私たちは存在する。そのことを心に刻み今後の訓練に励んでいきたい。

全国消防職員意見発表会 本県初、最優秀賞を受賞

第三八回全国消防職員意見発表会が五月二三日(土)静岡県浜松市で開催され、本県から大曲仙北広域市町村圏組合消防本部(角館消防署)の新田理沙さんが東北支部代表として出場、秋田県からは初となる最優秀賞を受賞しました。

新田さんは、救命講習で「ひとりで出来るか不安だ」という声を聞きスマートフォンなどを使って動画を見ながら心肺蘇生ができないかと考え、詳しい説明を省いた動画を作成し、インターネットの動画共有サイトに投稿、「すみません、誰か来て下さい。」と音声で検索できるようにしました。

この取り組みを
発表し、
いざという
場面で
「助けた
い」とい
う思いを
後押しし
たいと訴
えました。



(情報提供) 大曲仙北広域消防本部

森田ポンプ
桜ホース・ソフト吸管
各種消火器

ラビットポンプ
消防被服一式
消防機器一式

株式会社
株式会社

能代消防センター
協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

支部情報アラカルト

大館市水防訓練を
実施しました。

大館市消防団

五月三十一日、大館市消防団は北秋田地域振興局の後援をいただき、扇田地区米代川河川緑地において、大館消防署の指導員一名のもと、市内六個分団総員五〇名にて、土のう作成、ロープ結索や杭打ちの基礎訓練に始まり、積み土のう工、木流し工、シート張り工の水防工法訓練を行いました。田植えの最盛期でもあり、仕事や家庭でとても忙しい時期



に、また、早朝から雨が降ったり、強風が吹いたりと団員にとっては非常に厳しい条件のもと、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷

土愛護の崇高な精神のもと、消防団員一同、一致団結して訓練に励みました。

また、当日は最近ニュースで話題となっている、ドローンの山岳遭難や災害現場での有効利用について模索するため、市内の開発業者を招



き、操作や様々な利用への可能性について説明を受けました。上空からの訓練状況を地上モニターで確認するほか、赤外線サーモグラフィカメラによる熱源画像をモニターに映して、人や犬の形に浮かび上がった画像から、行方不明者や生存者の捜索に使用できそうなどの声がありました。

雨天や多少の風でも操作可能であること、座標入力による自動運転等々、今後は様々な面で有効なツールになり得ることを確認しました。

〔情報提供〕大館北秋田支部

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成27年		平成26年			同期比較	
	5月	累計	5月	累計	年計	5月	累計
建 物	11	87	15	106	199	- 4	- 19
林 野	7	24	5	35	46	2	- 11
車 輛	3	16	2	14	29	1	2
その他	14	30	8	42	77	6	- 12
合 計	35	157	30	197	351	5	- 40
死者数	8	26	3	21	35	5	5
負傷者数	2	42	6	43	61	- 4	- 1

第68回秋田県消防大会
(大館北秋田支部) 開催のお知らせ

消防団員意見発表のほか、講演、アトラクションもあります。

地域の方々も是非お出掛け下さい。

開催月日 平成27年7月4日(土)
午後1時から

開催場所 大館市字桜町南45-1
「大館市民文化会館」

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

株式会社 高 義 商 会

(営 業 種 目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消 火 器 各 種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯 沢 市 田 町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 タ カ ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営 業 種 目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース
トーハツポンプ | シバウラポンプ
各種消防機械器具 | 各種消火器
消防設備保守点検

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp